

科目名称：	社会的養護 I	
担当者名：	田中 智子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>保育者になるのに必要な「社会的養護」の知識を習得する事。現代社会の現状を理解した上で、社会的養護の仕組み、社会的養護の施設の種類・特質・役割を理解する。専門職としての自覚を持ち児童との適切な関わりと基本的な支援について学ぶ。社会的養護の児童に対しての関わり方を学ぶ。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1・社会的養護の役割と意味を踏まえ、その観念と基本原理を理解できる。 2・社会的養護の歴史と成り立ちを理解できる。 3・社会的養護の法制度とサービス体系を理解できる。 4・子どもの権利擁護について説明できるようになる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		60	20	20	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 児童養護施設保育士	《経験年数1》 36年
	《内容2》 社会福祉士	《経験年数2》 2年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
社会的養護の理解を深める	授業の内容をよく理解し、自分の意見を持つ。探求心がある。	「社会的養護」を理解している。	「社会的養護」を概ね理解している。	内容が理解できていない。
社会的養護の知識を得る	授業の内容について、積極的に質問して展開している。	授業内容を知識を得ようという意欲がある。	授業内容を概ね理解している。	社会的養護の知識が身についていない。
グループワークの積極性	積極的に自分の意見を言える。グループの意見に傾聴・共感できる	グループの意見を傾聴しながら、自分の意見を言える。	グループワークで自分なりの発言ができる。	グループワークに消極的である。
専門職としての意識	社会的養護Ⅱに繋がる意識が十分にある	専門職にむけて学習意欲がある。	専門職としても意識があまりみられない。	学習意欲が乏しい。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス・社会的養護とは？	社会的養護の理解。知識習得の必要性の確認	40分
第2回 社会的養護の意義と歴史	日本の社会的養護の歴史を調べる	30分
第3回 社会的養護の仕組み(施設養護・家庭的養護)	教科書にて施設養護・家庭的養護を調べる。	30分
第4回 社会的養護の施設について(種類・役割・特性・職員)	施設運営方針について調べる	30分
第5回 家庭的養護と家庭養護	里親について調べる	30分
第6回 社会的養護に関する機関	児童相談所の役割を調べる。	30分
第7回 社会的養護に関する法律	どのような法律があるのか調べる。	30分
第8回 社会的養護と子どもの権利	権利擁護とは何か？自分なりの意見をまとめる。	30分
第9回 利用・契約を基本とする施設	「措置」・「契約と利用」の違いをまとめる	30分
第10回 支援の実際(事例にて)	児童養護施設について調べる。	30分
第11回 児童虐待についてグループワーク①	最近気になった児童虐待の記事を調べる。	30分
第12回 確認テスト・確認テスト解説	講義11回までのプリントを復習する。	30分
第13回 ソーシャルワークと家庭支援・グループワーク②	ソーシャルワークとは何かを調べる	30分
第14回 施設内リスクマネジメント・グループワーク③	被措置児童等虐待について調べる	30分
第15回 小テスト・総まとめ	確認テストを復習する	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は 実施しない。
確認テスト・総まとめテスト60%・グループワークの積極性20%・課題提出20%

課題に対するフィードバック

前回の講義内容を振り返り、講義内容が円滑に進めるようにする。教科書に沿ったプリント・パワーポイントにて講義内容を理解し易くする。

教科書・参考書

教科書： 図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ(萌文書林)教科書は毎回の授業で使用する
参考書： この子を受けとめて、育むために (全国児童養護施設協議会)